



大会プログラム

第 1 日目 9 月 29 日 (土)

1. 自由研究発表(1) 第 1～第 8 分科会

大会校企画②③④

研究推進・若手交流支援企画

9:00～12:00

2. 定期総会

13:00～14:45

3. 課題研究 I～III、特別課題研究

15:00～18:00

第 2 日目 9 月 30 日 (日)

4. 自由研究発表(2) 第 9～第 23 分科会

ポスターセッション

9:00～12:00

5. 公開シンポジウム

13:00～16:00

6. ラウンドテーブル

16:30～18:00

大会テーマ

教師教育研究の射程を問い直す

【趣旨】

日本教師教育学会は、1991年の創設当初より「教師あるいは教職という概念を、たんに学校教育に直接携わっている人々だけに限定して理解すべきではない」と捉え、「社会教育や社会福祉事業に従事する人々をも含めた広い意味での教師、いわば、教育専門家の育成」に関して「教師教育をめぐるさまざまな視野からの総合的な研究」（設立趣旨）を行うべく研究活動を展開してきた。この趣旨は、その後の教育課題の多様化や、これに伴う教師の多忙化といった状況が深刻になってきたことを背景に「チーム学校」（教員と多様な専門性を持つ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携、協働すること）が政策的に打ち出されるに至る動向を、図らずも先取りしていたと言える。

では、本学会がこれまで行ってきた研究活動は、実際に「広い意味での教師、いわば教育専門家」のありようをどのように、どれだけ視野に収めてきたのだろうか。「チーム学校」の担い手のあり方が実際に問われる中で、本学会の研究活動がそれに裏打ちを与えることがどれだけできているのか。まずはそうした点が問い直されるべきではなからうか。

本学会が創設されて以降、教師教育のありようをめぐることは、実践面においても政策面においても様々に新たな課題が生じている。当然のことながら、それらは学校教育をめぐる同時代的な課題を背景としている。そうした新たな課題を教師教育研究の文脈に乗せる方法はどうあるべきか、という問いもまた、本学会で共有すべきものではないだろうか。

「教育の総合大学」を謳う東京学芸大学で17年ぶりに本学会の研究大会が開催されるこの機会に、大会実行委員会としては今一度、教師教育研究のありようを問い直す場を設け、会員諸氏の積極的な参画を期待したいと考えている。

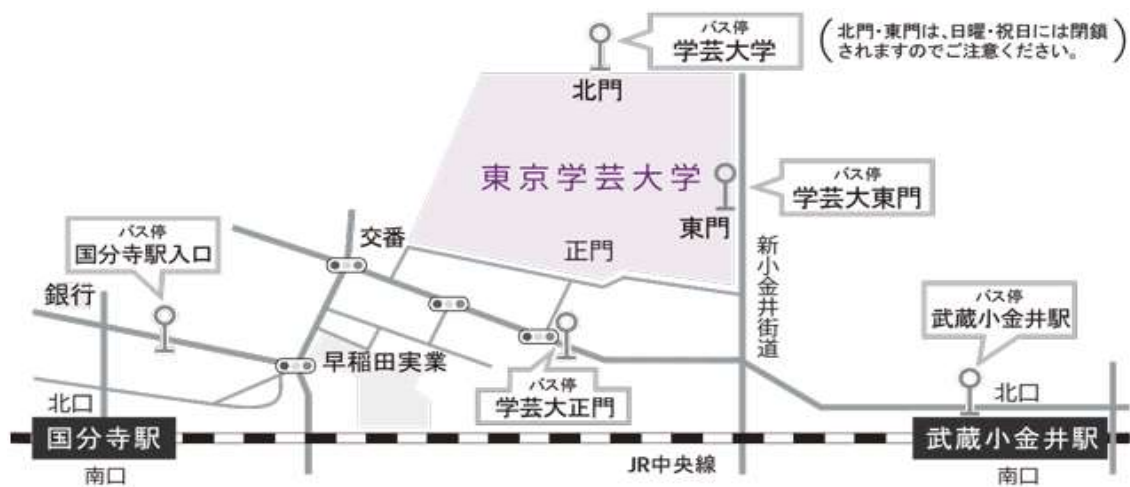
日本教師教育学会第 28 回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 太田伸也

日本教師教育学会第 28 回研究大会を、9 月 29 日（土）、30 日（日）に、東京学芸大学小金井キャンパスにおいて開催させていただくことになりました。前日の 28 日（金）午後にも大会校企画（1）を予定しています。大会事務局長の岩田康之氏を中心に本学及び附属学校の会員の皆様が準備を進めてきております。なお、29 日（土）は本学の「ミニオープンキャンパス」が開催され構内が賑やかになりますことご承知おきください。

全国の教員養成系大学・学部は、教員養成系大学改組の潮流の中で大きな転換期にあります。本学では「新たな総合型教職大学院」と「新たな修士課程」を構想し、教育の総合大学としての充実を期し、改組を予定しております。詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。

本学にとっては、このような中で、日本教師教育学会の研究大会開催の機会をいただくことになりました。教員養成、教師教育、そして教育支援のあり方についての研究を深めていければと考えております。大会校企画を中心に、いくつかを紹介させていただきます。大会校企画（1）では、28 日（金）午後に附属小金井小学校（教育実習中）での授業参観を計画しています。29 日（土）の大会校企画（2）では、本学教職大学院の「対話型模擬授業検討会」の取り組みを院生らが実演し、それをふまえて、授業のリフレクションのあり方、授業をめぐる対話のあり方の変革を目論む取組をめぐるディスカッションを行う予定です。（3）「社会の変化と子どもの多様性に見る教師教育への期待」では、学校教育における教師と教育支援者との連携事例から、そこでの成果や課題についての検討を通して、「チーム学校」への期待と問題点を議論し、これからの教師教育について考えてみる予定です。（4）「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修の現在、そして、これから一文部科学省「モデルプログラム開発事業」（略称）を巡る議論から一」では、開発事業の調査結果と資質能力モデル及びその育成のためのモデルプログラムの内容構成と例に関する報告を行い、「外国人児童生徒等教育」のための資質・能力の育成に関し、「地域支援者との協働と教育コミュニティの創造」と、「教師としてのキャリアにおける外国人児童生徒教育担当経験の意味」という視点で議論を行います。30 日（日）午後は、本大会のテーマ「教師教育研究の射程を問い直す」についての公開シンポジウムを開催します。非会員の方でも参加が可能です。皆様のご参加をよろしく願いいたします。



【小金井キャンパス西エリア (29日・30日主会場) までのアクセス】

① JR 武蔵小金井駅・北口より

京王バス〔5番乗場〕「小平団地」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車 (¥180)

② JR・西武 国分寺駅・北口より

銀河鉄道バス「国分寺駅入口」より「小平駅南口」行に乗車、約10分「学芸大学」下車 (¥170・交通系 IC カード使用不可)

徒歩約20分 (JR 国分寺駅北口→早稲田実業学校→連雀通り／小金井市保健センター前)

③ 西武 小平駅・南口より

銀河鉄道バス「国分寺駅入口」行に乗車、約15分「学芸大学」下車 (¥170・交通系 IC カード使用不可)

※銀河鉄道バスは北門付近に発着しますが、日曜日(30日)には北門は閉鎖されています。

【近隣のタクシー会社】以下の二社が比較的便利です。

京王自動車 042-382-9966 三幸交通 042-384-2100

【アクセスマップ・キャンパスマップ】

<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>

【大会日程】※この他、28日午後にも一部企画があります。

9月29日(土)

8:00	受付開始【C棟1F】
9:00~12:00	自由研究発表(8分科会)【C棟・W棟】 大会校企画【C203・C303・C402】 研究推進若手交流支援企画【W110】
12:00~13:00	昼休み
13:00~14:45	総会・再課程認定に関するセッション【W110】
15:00~18:00	課題研究1・2・3【C303・C401・C402】 特別課題研究【W110】
18:15~20:00	情報交換会【第一むさしのホール】

9月30日(日)

8:30	受付開始【C棟1F】
9:00~12:00	自由研究発表(15分科会)【C棟・S棟】ポスターセッション(12件)【S棟1F】
12:00~13:00	昼休み
13:00~16:00	公開シンポジウム【S410教室】
16:30~18:00	ラウンドテーブル(4室)【S棟1F】

【参加費・情報交換会費】

		会員参加費	非会員参加費	情報交換会費
事前申し込み (9/14まで)	一般	2,000円	2,500円	4,000円
	学生	500円	1,000円	2,000円
当日申し込み	一般	3,000円	3,500円	4,000円
	学生	1,000円	1,500円	2,500円

現職教員の方で大学院へ通われている方は学生扱いとなります。なお確認のため、受付で学生証をご提示ください。

事前申し込みをされている場合、受付でそれが確認できない場合は、9月14日までに指定口座にお振り込んだことを証明するもののご提示を求められます。

9月29日(土)は8:00から、30日(日)は8:30から受付を開始します。事前申し込みをされている方と、当日申し込みをされる方とで、別々の窓口を設けます。

【学会費について】

学会費の納入について、2018年度および過年度の学会費の納入をお願いします。事情により未納の会員の方は、当日、受付付近に学会事務局デスクを設置いたしますので、そちらで会費を納入できます。

【企画の概要】

1. 大会校企画 [28日午後・29日午前]

「教育の総合大学」である東京学芸大学の多様な取り組みの一端を、この大会の場を借りてご紹介いたします。以下四つのプログラムを用意しております。

■企画1 授業公開（附属小金井小学校） 28日（金）午後

教育実習生の授業の一部を公開します。詳細はwebサイトにてご案内いたします。

担当：太田伸也 shinya10@u-gakugei.ac.jp [副学長：附属学校・現職教育等担当]

根本 徹 [附属小金井小学校] 齋藤和貴 [附属小金井小学校]

■企画2 「対話型模擬授業検討会」の実演とそれをめぐって（29日午前 C203 教室）

東京学芸大学教職大学院の「対話型模擬授業検討会」の取り組みをご紹介します。院生らがそれを実演し、それをふまえて、これをめぐるディスカッションを行う予定です。

担当：渡辺貴裕 nabetaka@u-gakugei.ac.jp [教職大学院]

■企画3 社会の変化と子どもの多様性に見る教師教育への期待（29日午前 C303 教室）

学校教育における教師と教育支援者との連携事例から、その成果や課題について検討します。「チーム学校」への期待と問題点を議論し、これからの教師教育について考えます。

担当：大澤克美 katsumio@u-gakugei.ac.jp [社会科教育]

■企画4 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修の現在、そして、これから

（29日午前 C402 教室）

文部科学省委託事業「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」に関して、調査結果とモデルプログラムに関する報告に基づき、議論を行います。

担当：齋藤ひろみ shiromi@u-gakugei.ac.jp [日本語教育]

2. 自由研究発表 [29日午前・30日午前]

自由研究発表には94件のお申込みをいただきました。2日間に渡り、23の分科会を設置しております。個人研究発表（発表者が一名の共同研究も同様）は一件あたり30分（発表20分・質疑応答10分）、共同研究発表は一件あたり50分（発表35分・質疑応答15分）となります。発表者は分科会開始10分前（8:50）には、会場にご集合下さい。各分科会とも、発表と質疑終了後、30～60分の全体討議を行います。原則として、発表者は全体討議が終了するまで分科会会場に在席して下さい。

発表者がやむを得ぬ事情で発表を取りやめた際には、討議・休憩などに充て、発表順の繰り上げはいたしません。

発表者が配付資料等を用意される場合は60部を目安にお願いいたします。分科会に参加できなかった方々ために、発表資料交換コーナー（C棟1F受付付近）を設けます。

3. 研究推進・若手交流支援企画「教科固有の教師の力量形成を共有する」

(29日午前・W110教室)

学会研究部の取り組みの一環として、研究推進・若手交流支援企画を開催します。今回は教科教育を専門とする教師教育研究者を主な話題提供者に迎え、教科固有の実践知と力量形成のありかたを参加者が共有し、その固有性に対する理解を深めるとともに、教科を超えた普遍的な力量形成のありようを検討します。

4. 課題研究 (29日 15:00~18:00 C棟・W棟各教室)

学会研究部による課題研究セッションを、以下4件設けております。参加者の方々に豊富なディスカッションを期待します。

■課題研究1「教師教育研究の成果と課題の検討」(C303教室)

担当：浜田博文理事（筑波大学）

■課題研究2「教師教育における社会的公正の観点と課題」(C401教室)

担当：佐藤千津理事（国際基督教大学）

■課題研究3「『教育学部』の30年：事例に学ぶ」(C402教室)

担当：岩田康之理事（東京学芸大学）

■特別課題研究「防災・安全教育を教員養成・研修において考える」(W110教室)

担当：金馬国晴理事（横浜国立大学）

5. ポスターセッション [30日 9:00~12:00 S棟 1F]

12件のお申込みをいただきました。9月30日9:00~12:00にS棟1Fピロティにてポスターセッションの設定をいたします。それぞれについて、A0版が2枚横に貼れるようにボードを用意します。発表者は、発表時間中は、参加者の質疑応答に備えてください。

なお、荒天時は、S棟1F S107教室にて実施します。

6. 公開シンポジウム [30日 13:00~16:00 S410教室]

大会テーマに即した公開シンポジウム「教師教育研究の射程を問い直す」を開催します。会員外の方でも参加できます。

<話題提供者> 無藤隆（白梅学園大学） 松田恵示（東京学芸大学）

百合田真樹人（教職員支援機構）

<指定討論者> 高野和子（明治大学・日本教師教育学会会長）

<コーディネータ> 岩田康之（東京学芸大学）

7. ラウンドテーブル [30日 16:30~18:00 S棟 1F・2F 各教室]

4件のお申し込みをいただきました。それぞれのテーマに即して、文字どおりテーブルを囲んで率直な意見交換ができるように、机椅子可動の部屋を用意してあります。

【定期総会】

9月29日（土）13:00から、W110教室で行います。会員の皆様の参加をお願いいたします。なお、総会に引き続き、再課程認定に関するセッションを行います（～14:45）

【情報交換会】

9月29日(土) 18:15~20:00に、会員相互の情報交換と親睦を深めるため、キャンパス内の生協食堂(第一むさしのホール)にて情報交換会を開催いたします。各種お飲み物、お料理を用意しております。どうぞみなさまのご参加をお待ちしております。

【会場の機材について】

全ての発表会場に、プロジェクターとスクリーンが設置されています。入力端子、VGA仕様(D-SUB15ピン)とHDMIの両方があります。次頁の一覧でご確認下さい。

教室にはコンピュータは設置しておりません。ご使用になる場合は原則として各自でご用意下さい。分科会での発表者は、発表前に必ず各自の使用される機器との接続チェックを済ませて下さい。

大学内のWi-Fiでのインターネット接続については保証できません。必要な場合は、各自Wi-Fiルータ等をご用意下さい。

【その他】

- (1) 小金井キャンパス内への自家用車の乗入れは原則としてお断りしております。公共交通機関をご利用下さい。
- (2) 昼食について、29日は学内の食堂が営業しております(第一食堂=第一むさしのホール、およびNoteCafe=図書館1F)。30日につきましては、学内の飲食施設は全て休業しておりますので、お弁当の予約販売を承ります(お弁当販売:お茶付き1000円)。29日(土)12:30までに会場受付で昼食券をお買い求めください。
- (3) 29日の午後(13:00~15:30、キャンパスツアーは11:00から)に、ミニオープンキャンパスが開催されております(主にS棟・N棟各教室)。多少学内が賑やかになりますこと、ご承知おき下さい。
- (4) 書籍の販売に関しては、学会大会への協力企業に限定させて頂いております。ご了承下さい。

教室一覧

場所		机椅子可動	PC接続	29日午前	29日午後	30日午前	30日午後
W棟1F	W110	×	HDMI	若手交流	総会/特別セッション/課題研究(特)		
W棟2F	W201	○	HDMI	分科会(1)			
W棟3F	W301	○	HDMI	分科会(2)			
	W302	○	HDMI	分科会(3)			
C棟1F	C102	○	VGA	受付・会員控室	受付・会員控室	受付・会員控室	受付・会員控室
	C103	○	VGA	受付・会員控室	受付・会員控室	受付・会員控室	受付・会員控室
C棟2F	C201	×	VGA	分科会(4)		分科会(9)	
	C202	×	VGA	分科会(5)		分科会(10)	
	C203	○	VGA	企画(2)対話型		分科会(11)	
	C204	×	VGA	分科会(6)		分科会(12)	
C棟3F	C301	×	VGA	分科会(7)			
	C302	×	VGA	分科会(8)			
	C303	×	HDMI	企画(3)支援	課題研究(1)		
C棟4F	C401	×	VGA		課題研究(2)		
	C402	×	VGA	企画(4)日本語	課題研究(3)		
S棟1F	S101	○	VGA	ミニオープンキャンパス		分科会(13)	
	S102	○	HDMI			分科会(14)	ラウンドテーブル(1)
	S103	○	HDMI			分科会(15)	ラウンドテーブル(2)
	S105	○	VGA			分科会(16)	ラウンドテーブル(3)
	S106	○	VGA			分科会(17)	ラウンドテーブル(4)
	S107	○	HDMI			予備	予備
	ピロティ	-				ポスターセッション	
S棟2F	S201	○	HDMI			分科会(18)	
	S202	○	HDMI			分科会(19)	
	S203	×	HDMI			分科会(20)	
	S204	椅子のみ	HDMI		分科会(21)		
	S205	椅子のみ	HDMI		分科会(22)		
	S206	椅子のみ	HDMI		分科会(23)		
S棟4F	S410	×	HDMI			シンポジウム	

*28日の理事会および年報編集委員会は、教職大学院棟 1F の講義室 1・2 にて行われます。理事及び年報編集委員のみなさまは、それぞれ会議開催通知をご参照下さい。

*情報交換会は、第一食堂（第一むさしのホール）にて行われます。

大会プログラム

第 1 日目 9 月 29 日 (土)

自由研究発表(1) 第 1～第 8 分科会

大会校企画②③④

研究推進・若手交流支援企画

9:00～12:00

定期総会

13:00～14:45

課題研究 I～III、特別課題研究

15:00～18:00

情報交換会

18:15～20:00

第1分科会 29日 9:00-12:00

西講義棟 2F W201 教室[要旨 p. 50~57]

司会： 後藤 郁子（お茶の水女子大学）
八尾坂 修（開智国際大学）

- 9:00- 9:30 英語教育関係者の相互理解と成長の促進
○小嶋英夫（文教大学）
- 9:30-10:00 省察に関する信念の内容とその形成に関する研究
—学び続ける教師のライフヒストリーに注目して—
○梶井大輔（桃山学院教育大学）
- 10:00-10:30 多様な社会経済的背景を持った子ども理解における困難とその
経験過程の検討—対話的自己理論を用いて—
○石島照代（東京大学 [特任研究員]）
- 10:30-11:20 協働して授業力向上を目指す研修による小学校若手教員の変容
—授業後の省察内容に着目して—
○前田康二（奈良教育大学）
○石井宏典（奈良県立教育研究所）
- 11:20-12:00 全体討議

第2分科会 29日 9:00-12:00

西講義棟 3F W301 教室[要旨 p. 58~65]

司会： 森 透 (福井医療大学)
香川奈緒美 (島根大学)

- 9:00- 9:30 働き方改革の実現を目指した危機管理対応研修教材の開発
—クライシスマネジメント・リスクマネジメントのつながりに
着目した学校危機曼荼羅図を用いて—
○市川公明 (信州大学)
青木 一 (信州大学)
- 9:30-10:20 ユネスコスクール NISHITA のホールスクールアプローチ 2 年間の
のあゆみ—ESD からみた教師と子どもの変容について—
○新井雅晶 (東京都杉並区立西田小学校)
○小堂 十 (東京都杉並区立西田小学校)
- 10:20-10:50 教科横断的に指導する効果的な取り組みに関する研究
—理科と技術科と総合的な学習の時間と—
○前田善仁 (東海大学)
- 10:50-11:20 若手教諭の学級経営を支援する学年会の機能に関する一考察
○中村理依子 (帝京大学 [大学院生]・東京都板橋区立加賀小学校)
- 11:20-12:00 全体討議

司会：小野瀬善行（宇都宮大学）
油布佐和子（早稲田大学）

- 9:00- 9:30 モロッコの小学校教育における教員間の同僚性
—ODAによる算数教育支援活動—
○佐藤 晃（NPO 法人日本標準教育研究所）
- 9:30-10:00 米国における Lesson Study の展開
—協働での授業計画に着目して—
○木塚誉貴（東京大学 [大学院生]）
- 10:00-10:50 e ラーニング教材を活用した臨時的任用講師研修—教師力養成
塾 e-講座を活用した臨時的任用講師研修実践報告—
○杉山正典（早稲田アカデミー）
○牛嶋孝輔（早稲田アカデミー）
- 10:50-11:20 ESD を視点とした学びを構築する学校内外との協働的实践をふ
りかえる
○松田剛史（藤女子大学）
- 11:20-12:00 全体討議

司会：前田 輪音 （北海道教育大学札幌校）
百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

- 9:00- 9:30 教育実習における板書型指導案の教育的効果について
○前原隆志（山口県防府市立右田中学校）
長友義彦（山口大学）
- 9:30-10:20 学校インターンシップは教育実習の機能を代替することは
できるのか
○原 清治（佛教大学）
○芦原典子（京都栄養医療専門学校）
- 10:20-10:50 異文化認識や学校観をゆさぶるタイの学校訪問活動
—その教育的効果を考える—
○倉持祐二（京都橘大学）
- 10:30-11:20 小学校教職課程の基盤とする学校体験活動の意義と
その設置・運営の在り方
○矢野博之（大妻女子大学）
- 11:20-12:00 全体討議

第5分科会 29日 9:00-12:00

中央講義棟 2F C202 教室[要旨 p. 82~89]

司会：内山 隆（北海道教育大学釧路校）
金馬国晴（横浜国立大学）

- 9:00- 9:30 「教育方法論」における授業実践についての一考察
○藤原靖浩（大阪市立大学 [特任講師]）
- 9:30-10:00 「教員養成教育」が教員の「学習指導力」に与える影響について
の一考察
—1921年実施「小月小学校外三校学校調査」の分析を中心に—
○長谷川鷹士（早稲田大学 [大学院生]）
- 10:00-10:50 「教職科目における〈学生主体の学習〉及び〈分かちあい授業
研究〉」についての検討
○張 建（東京電機大学）
小島 勇（東京電機大学）
○徳武隼人（東京電機大学 [学部生]）
○渡邊祥平（東京電機大学 [学部生]）
- 10:50-11:20 高等学校「工業科」「情報科」の教育実習前の指導
—教科教育法の模擬授業を通して—
○小出禎子（愛知工業大学）
- 11:20-12:00 全体討議

司会： 赤星晋作（広島市立大学）
福本みちよ（東京学芸大学）

- 9:00- 9:30 「教職実践演習（栄養教諭）」の実践と「履修カルテ」活用の効果
○新井英志（天使大学）
- 9:30-10:00 メタ認知能力向上に影響のある要因について
—大学の授業実践より—
○一之瀬敦幾（常葉大学）
- 10:00-10:30 CBL（Cloth/Cross Board Learning）を用いた大人数の教職科目におけるグループ学習—「特別活動・総合的学習論」で試行した授業とその効果の検証—
○滋野哲秀（龍谷大学）
- 10:30-11:00 MI（マルチプル・インテリジェンス）を活用したグループによる問題解決的な学習の展開
—初等家庭科教育法における試み—
○加賀恵子（大阪教育大学）
- 11:00-11:30 自分が好き、仲間・学校が好き、地域が好きなお子様の育成
—カリキュラムマネジメントの充実を通して—
○大山和則（愛知県知立市立八ツ田小学校）
- 11:30-12:00 全体討議

司会：玉井康之（北海道教育大学釧路校）
村上純一（文教大学）

9:00- 9:30 小中一貫教育推進校において教員のリーダーシップを発揮させる上で壁になっていることに関する研究

○小柳和喜雄（奈良教育大学）

9:30-10:00 幼小接続の視点から見た初等教育教員の専門性に関する研究
—Association for Childhood Education International
(ACEI) における議論に着目して—

○奥田修史（筑波大学 [大学院生]）

10:00-10:30 教員の教育活動とその熟達について
—「アンケート」から構成される熟達モデルの考察—

○谷 哲弥（大谷大学）

10:30-11:20 「専門職の学習共同体」としての学校と教師効力感との関係についての研究

○町支大祐（立教大学）

○中田正弘（帝京大学）

○坂田哲人（帝京大学）

脇本健弘（横浜国立大学）

11:20-12:00 全体討議

第8分科会 29日 9:00-12:00 中央講義棟 3F C302 教室[要旨 p. 108~115]

司会： 大村龍太郎（東京学芸大学）
浜田 博文（筑波大学）

- 9:00- 9:50 評価育成システムは教員の意欲向上、教育活性化を妨げる
—大阪府「評価・育成システム」についての調査結果から—
○杉浦 健（近畿大学）
○大前哲彦（大阪体育大学）
- 9:50-10:20 児童文芸雑誌『赤い鳥』における小学校教師読者の意識形成に
関する一考察
○田中卓也（静岡産業大学）
- 10:20-10:50 学級状態の数理モデル的表現…シナジェティクスの視点
○小山和男（兵庫県西宮市立深津中学校）
- 10:50-11:20 『月刊生徒指導』で語るもの/語られるもの
—ジェンダーに着目して—
○寺町晋哉（宮崎公立大学）
- 11:20-12:00 全体討議

大会校企画② 29日 9:00-12:00

中央講義棟 2F C203 教室

「対話型模擬授業検討会」の実演とそれをめぐって

企画者：渡辺貴裕（東京学芸大学 [教職大学院]）

<趣旨>

本学教職大学院で学卒院生を対象に行っている「対話型模擬授業検討会」の取り組みは、単に模擬授業のやり方の工夫といったことにとどまるものではなく、授業のリフレクションのあり方、授業をめぐる対話のあり方の変革を目論むものでもあります。

本セッションでは院生らがそれを実演し、それをふまえて、これをめぐるディスカッションを行う予定です。

<報告者>

渡辺貴裕（東京学芸大学 [教職大学院]）

矢嶋昭雄（東京学芸大学 [教職大学院]）

岩瀬直樹（軽井沢風越学園・元東京学芸大学 [教職大学院]）

武田信子（武蔵大学）

佐々木宏（東京都立日野台高等学校）

大会校企画③ 29日 10:00-11:30

中央講義棟 3F C303 教室

社会の変化と子どもの多様性に見る教師教育への期待

企画者：大澤克美（東京学芸大学 [社会科教育]）

<趣旨>

ここでは、学校教育に生起している様々な問題の改善に取り組む教師と支援者との連携に関わる報告を通して、学校教師と教育支援関係者との連携における成果や課題について検討すると共に、「チーム学校」の背景やその実現への期待と問題点について話し合う。そうした議論を踏まえ、社会に開かれた教師像、さらには今後求められる養成を含めた教師教育のあり方などについて議論を深めたい。

この「特別企画」のセッションは、日本教師教育学会と日本教育支援協働学会に入っている方々を中心に企画・設定した。教育問題の事例や「チーム学校」の全体的動向についての報告を含めて、教育支援に関わる人たちの閉じた集まりにせず、教師教育関係者と教育支援関係者の交流及び相互理解の機会にしたいと考える。

<話題提供者>

大竹美登利（東京学芸大学 [名誉教授]）

坂井 俊樹（開智国際大学）

新崎 国広（大阪教育大学）

加瀬 進（東京学芸大学）

君塚 仁彦（東京学芸大学）

外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修の現在、そして、これから
—文部科学省「モデルプログラム開発事業」(略称)を巡る議論から—

企画者：齋藤ひろみ(東京学芸大学 [日本語教育])

<趣旨>

近年、日本語指導が必要とされる外国人児童生徒等には新たな増加が見られる。また、文部科学省令改正により、かれらの日本語指導は「特別の教育課程」として編成・実施できることとなり、学校現場ではその担当者として専門性を有する教員の確保が喫緊の課題となっている。こうした状況に対し、文部科学省は、2017年度より委託事業として「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」を開始した。

2017年度・2018年度は日本語教育学会がこの事業を受託し、調査・プログラム開発を進めている。2017年度には大学及び教育委員会等を対象に関連する養成・研修の実態調査、資質・能力に関する聞き取り調査を実施し、モデルプログラム(案)を開発した(<http://www.nkg.or.jp/news/6038>にて公開)。本年度(2018年度)は、資質能力モデルの構築とモデルプログラムの検証に取り組んでいるところである。本課題研究では、まず、本事業の調査研究を進めているメンバーより、本事業に関して、調査結果と資質能力モデル及びその育成のためのモデルプログラムの内容構成と例に関する報告を行う。その後、「外国人児童生徒等教育」のための資質・能力の育成に関し、「地域支援者との協働と教育コミュニティの創造」と、「教師としてのキャリアにおける外国人児童生徒教育担当経験の意味」という視点で議論を行う。

<報告者>

報告1：市瀬智紀(宮城教育大学)・伊東祐郎(東京外国語大学)

外国人児童生徒等教育・日本語指導担当教員の養成・研修の実態調査の報告

報告2：齋藤ひろみ(東京学芸大学)・浜田麻里(京都教育大学)

モデルプログラムの資質能力観とプログラムの構成・内容

報告3：各務真弓(可児市国際交流協会)

地域支援の立場から求める外国人児童生徒等教育を担う教員に求める資質・能力

<ディスカッサント>山崎準二(学習院大学)

研究推進・若手交流支援企画 29日 9:00-12:00 西講義棟 1F W110 教室

「教師教育の実践と研究（3）」
— 教科固有の教師の力量形成を共有する —

<企画者>

担当理事：鹿毛雅治（慶應義塾大学）・高旗浩志（岡山大学）・
前田一男（立教大学）

学会幹事：沖奈保子（東京都立国際高等学校）・小田郁予（東京大学〔大学院生〕）・
早坂めぐみ（秋草学園短期大学）・望月耕太（神奈川大学）・
渡邊 巧（広島大学）

<趣旨>

「研究推進・若手交流支援企画」では、「教師教育の実践と研究」と題し、これまで3回の企画を行った（2017年3月・慶應義塾大学、2017年10月・奈良教育大学、2018年3月・岡山大学）。今年度の全国大会では、これらの関心を引き継ぎ、特に前回企画で課題となった「教科固有の実践知と力量形成を『教師教育』というプラットフォームで共有する」ことについて、引き続き考えたい。

前回企画では、教科別の教師教育研究という「分化」の方向ではなく、教科固有の実践知のありかたとその継承および力量形成のあり方を開き合い、共有することにより、教科に根ざした教師教育研究を「統合」的に捉えることの重要性を確認した。そこで今回は、教科教育に関わる教師教育研究者を話題提供者に迎え（体育、社会、音楽、数学の各教科）、教科固有の実践知と力量形成のありかたを参加者が共有し、その固有性に対する理解を深めるとともに、教科を超えた普遍的な力量形成のありようを検討したい。

各教科に関する話題提供、指定討論者によるコメントおよび質疑応答ののち、参加者とともにグループ・ディスカッションを行う。多くの方々にご来場いただきたい。

【キーワード：教科固有の実践知と教師の力量形成、教師教育というプラットフォーム】

<提案者（教科／所属）>

朝倉雅史（体育科／早稲田大学）・大坂遊（社会科／徳山大学）・田中里佳（音楽科／東京都小学校教員）・森田大輔（数学科／東京学芸大学〔大学院生〕）

<指定討論者>岡村健太（美作大学）・森田真樹（立命館大学）

<司会者>（前半）早坂めぐみ（秋草学園短期大学）

（後半）小田郁予（東京大学〔大学院生〕）・渡邊巧（広島大学）

第28回 定期総会 29日 13:00-14:45 西講義棟 1F W110 教室

【予定議題】

1. 開会の辞
2. 第28回大会校より挨拶
3. 日本教師教育学会長挨拶
4. 議長選出
5. 報告事項
 1. 会務報告
 2. 年報編集委員会報告
 3. 研究部活動報告
 - 課題研究Ⅰ・課題研究Ⅱ・課題研究Ⅲ・特別課題研究
 - 国際交流研究部
 - 研究推進・若手交流支援企画
 - 特別課題研究「大学教育と教職課程」立ち上げについて
 - 確認事項「学会研究費として使用可能な用途について」
 4. 研究倫理規程 WG
6. 審議事項
 1. 会員名簿管理システムの導入について
 2. 2017年度決算
 3. 2017年度監査報告
 4. 2018年度予算
 5. 規定等の改正について
 6. 第29回研究大会開催校
7. その他
8. 議長退任
9. 連絡事項
10. 閉会の辞

■再課程認定に関するセッション

総会に引き続き、5月に会員対象に行った「教職課程の再課程認定についての教師教育学会会員アンケート」の集約結果報告を行います。

<情報交換会> 9月29日(土) 18:15~20:00 第一むさしのホール

会員相互の情報交換と親睦を深めるため、情報交換会を開催いたします。各種お飲み物、お料理を用意しております。どうぞみなさまのご参加をお待ちしております

課題研究 I 29 日 15:00~18:00 中央講義棟 3F C303 教室

教師教育研究の成果と課題の検討

<趣旨>

今期の課題研究 I 部会では、『教師教育研究ハンドブック』（2017 年）の部構成を手がかりにして、これまでの教師教育研究の研究レビューを積み重ね、教師教育研究の全体マップを作成することを目指しています。今回は同書の第一部から 3 つの章をピックアップし、各章に関連する研究成果や今後の課題等について、参加者でじっくり検討します。参加される方は、同書の該当章をお読みになってご参加ください。

司会： 山崎準二（学習院大学）

<報告者>

高野貴大（筑波大学大学院・院生、日本学術振興会特別研究員）
第一部第 5 章「教職の専門家としての発達と力量形成」の検討

望月耕太（神奈川大学）
第一部第 7 章「教員文化と同僚関係」の検討

浜田博文（筑波大学）
第一部第 6 章「教職専門性基準」の検討

教師教育における社会的公正の観点と課題

<趣旨>

今期は教育の「社会的公正」をめぐる教師教育について検討する。学校や学級における子どものバックグラウンドやニーズが多様化するなか、社会的公正の視点を有する教育や、そうした教育の担い手を育成するための教師教育が必要とされている。しかしながら、このような課題は、本学会の過去の課題研究や『教師教育研究ハンドブック』においては充分に対象化されていない。そこで今期の課題研究では、教師教育において社会的公正概念がどのように捉えられ、実践されてきたかについて検討しながら、教師の職業的自律性や、それに基づいた教師教育の自律的改善システムなどについて考えてみたい。

まず、海外諸国・地域の教師教育における社会正義、人権、公正などに関する概念枠組みや制度・政策、実践レベルでの取り組み、ガバナンス構造などを具体的に検討する。その分析を踏まえ、次に、今日の日本の教師教育政策を相対化し、教師教育の自律的な改善のためのシステムモデルや、教師教育研究のための比較分析枠組みに関する提案を試みる。

第28回大会では、アメリカの状況に焦点化し、社会的公正の観点から教師教育の課題を捉え、日本の教師教育を考えるために必要な論点を提示してみたい。

司会： 吉岡真佐樹（京都府立大学） 佐藤千津（国際基督教大学）

報告1 佐藤 仁（福岡大学）

「集团的自己規制としてのアメリカの教員養成評価システム—社会的公正に向けた教員養成を支える機能—」

報告2 百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

「教師教育機関の自律性とアカウンタビリティ—自律性の保証装置としてのアカウンタビリティ—」

報告3 北田佳子（埼玉大学）

「アカウンタビリティ政策が教師の教育実践に及ぼす影響—セントラル・パーク・イースト小・中等学校の事例を手がかりに—」

「教育学部」の30年：事例に学ぶ

<趣旨>

課題研究Ⅲ「教師教育『高度化』の政策的検討」部会では、近年の教師教育の動向を構造的に把握すべく、近年の教師教育政策が生じるメカニズムを解析するとともに、そうした政策が教師教育の実際の現場(実践)にどう投影されているかを検証し、今後の教師教育の政策と実践を考える上で重要な論点を提示することを企図しています。

今回のセッションでは、年報27号の「特集」とタイアップする形で、ここ三十年ほどの「教育学部」(主に国立の教員養成系)の政策動向を概括した上で、単科大学・総合大学それぞれの事例に即して、学部・大学院の組織とそこでの教員養成の変容過程を振り返り、昨今の政策の背景を探ります。

コーディネータ：船寄俊雄(神戸大学) 岩田康之(東京学芸大学)

報告1 岩田康之(東京学芸大学)

日本の『教育学部』：1980年代以降の動向

報告2 岡野 勉(新潟大学)

新潟大学教育学部の30年—教科の基礎学問の大幅な縮小と教員養成の変容—

報告3 長尾彰夫(元・大阪教育大学)

大阪教育大学の事例—教養学科発足と消滅のポリティクス—

特別課題研究 29日 15:00~18:00 西講義棟 1F W110 教室

防災・安全教育を教員養成・研修において考える
—専門研究と学校、地域からの示唆—

<趣旨>

専門研究者、実践家・地域起業家の提案を受け、防災と安全の教師教育をイメージするとともに、阪神淡路大震災と東日本大震災の二度の大震災を中心的な例としつつ、風水・土砂災害、不審者対応などへの示唆も引き出したい。

<報告者および講師>

徳水博志

(石巻市立雄勝小学校元教諭、(一社)雄勝花物語 共同代表他)
学校と地域、および東日本大震災を例に

室崎益輝 (兵庫県立大学減災復興政策研究科科長)

防災・減災研究—阪神・淡路大震災、風水・土砂災害を例に

第 2 日 目 9 月 30 日 (日)

自由研究発表(2) 第 9～第 23 分科会

ポスターセッション

9:00～12:00

公開シンポジウム

13:00～16:00

ラウンドテーブル

16:30～18:00

司会：原 清治（佛教大学）
矢嶋昭雄（東京学芸大学）

- 9:00- 9:30 子どもとの遊びから学生は何を学んでいるか
—小学校観察実習での業間休みに焦点をあてて—
○時田詠子（群馬医療福祉大学）
- 9:30-10:00 記述を通じた教育実践へのリフレクションの可能性
○村井尚子（京都女子大学）
- 10:00-10:30 へき地教育プログラムの構造化と教員養成における教育的効果
—北海道教育大学釧路校の取組を中心に—
○川前あゆみ（北海道教育大学釧路校）
- 10:30-11:00 教育実習における力動的連関性が実習生に与える影響
—「複雑系」理論（Complexity Theory）の創発に注目して—
○荒巻恵子（帝京大学）
- 11:00-11:30 一般大学学部における教育実習の多様性と効果
—中学校に注目して—
○櫻田裕美子（宮崎産業経営大学）
- 11:30-12:00 全体討議

第 10 分科会 30 日 9:00-12:00 中央講義棟 2F C202 教室[要旨 p. 138~145]

司会：難波知子（川崎医療福祉大学）
伏木久始（信州大学）

- 9:00- 9:30 福井医療大学における養護教諭養成の試み
○森 透（福井医療大学）
- 9:30-10:20 教員養成における音楽教育のパフォーマンス評価
—学生と大学教員の評価結果から—
○服部慶子（静岡大学）
○長谷川哲也（岐阜大学）
- 10:20-10:50 私立大学における数学教員養成に関する研究（1）
—看護師教育からみた教師教育への示唆—
○神原一之（武庫川女子大学）
- 10:50-11:20 戦後教育改革における養護教諭の地位と養成方法
○高橋沙希（東京大学 [大学院生]）
- 11:20-12:00 全体討議

第11分科会 30日 9:00-12:00 中央講義棟 2F C203 教室[要旨 p.146~153]

司会：杉原央樹（名古屋女子大学）
武田信子（武蔵大学）

- 9:00- 9:30 「観察による徒弟制」と教員養成段階における接続関係の分析
—教員養成学部生の学校経験と養成教育での社会化過程—
○太田拓紀（滋賀大学）
- 9:30-10:00 教職志望学生の思考に及ぼす相互作用の影響に関する一考察
○山内絵美理（九州大学 [大学院生]）
- 10:00-10:30 教師のハビトゥスに着目した教員養成の可能性
—教職に対する見方と実践習慣の形成を目指して—
○村井大介（静岡大学）
- 10:30-11:00 防犯意識を高めるための研究
—段階別安全教育カリキュラムづくりと開発的防犯教育—
○吉田光男（愛知教育大学 [大学院生]）
- 11:00-12:00 全体討議

第 12 分科会 30 日 9:00-12:00 中央講義棟 2F C204 教室[要旨 p. 154~161]

司会： 久保富三夫（立命館大学）
諏訪 英広（兵庫教育大学）

- 9:00- 9:30 大川小学校国家賠償等請求控訴事件における学校の組織的過失と責任—『学校保健安全法』26条-29条の組織的過失と責任を考える—
○古家正暢（帝京大学）
- 9:30-10:00 教員の問題行為に関する裁判例分析（1）
—教員「資質」の再検討—
○中尾豊喜（大阪体育大学）
- 10:00-10:50 教員育成協議会の全国的な設置状況の特色と課題
—協議会への大学のかかわり方を中心に—
○牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
○原田絵里子（東京情報大学）
太田拓紀（滋賀大学）
田子 健（東京薬科大学）
森田真樹（立命館大学）
- 10:50-11:20 明治後期における小学校教員養成制度と地方性をめぐる問題
○加島大輔（愛知大学）
- 11:20-12:00 全体討議

司会：小林淳一（金沢学院大学）
高旗浩志（岡山大学）

- 9:00- 9:50 平成の教師はどのように成長してきたか
—2017年度質問紙調査の結果報告—
○川村 光（関西国際大学）
○紅林伸幸（常葉大学）
○金子真理子（東京学芸大学）
○望月耕太（神奈川大学）
- 9:50-10:20 アメリカにおける教員養成と採用の関係性
—制度的構造の特質—
○佐藤 仁（福岡大学）
- 10:20-10:50 韓国の学校における相談教師の役割認識の形成過程と要因
○張 信愛（関東学園大学）
- 10:50-11:20 持続的な教師の学びを支える学校内・間ネットワーク
—垂直的・水平的視点から探る秋田市事例研究—
○山本佐江（帝京平成大学）
- 11:20-12:00 全体討議

司会：田子澄子（東京学芸大学）
三石初雄（帝京大学）

- 9:00- 9:30 高校初任者研修におけるリアリスティックアプローチに基づいた授業リフレクションの効果の検証
—生徒の捉え方を中心に—
○松本 泉（静岡県総合教育センター）
- 9:30-10:20 セクシュアル・マイノリティの教師による性の多様性に向けた教育の展望—個人への支援・配慮を超えて—
○有間梨絵（東京大学 [大学院生]）
○植松千喜（東京大学 [大学院生]）
○石塚 悠（東京大学 [大学院生]）
○志津田萌（東京大学 [大学院生]）
- 10:20-10:50 中学校教師のライフコース研究—「新任期の経験：楽しさ・やり甲斐、困難・悩み」について—
○佐藤 良（元・東洋大学 [非常勤講師]）
- 10:50-11:20 教師の成長・発達に関する質的研究の再検討とその可能性
—複線径路等至性アプローチ（TEA）に着目して—
○小杉進二（長崎県平戸市立生月中学校）
- 11:20-12:00 全体討議

司会：池上 徹（関西福祉科学大学）
石島照代（東京大学[特任研究員]）

- 9:00- 9:30 “Teacher as researcher”論の再検討
—訳語「調査する教師」の提案—
○根津朋実（筑波大学）
- 9:30-10:00 教師教育研究の問いについて
—国際調査研究のディスコースからの検討—
○百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
香川奈緒美（島根大学）
- 10:00-10:30 Journal of Mathematics Teacher Education 誌に見る数学教師
教育研究の国際的動向
○森田大輔（東京学芸大学 [大学院生]）
- 10:30-11:00 持続可能なアクティブ・ラーニングの要素—教師の能力形成—
○香川奈緒美（島根大学）
百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
- 11:00-12:00 全体討議

司会：新井保幸（育英大学）
岡野 勉（新潟大学）

- 9:00- 9:30 唐澤富太郎が『教育博物館』において究明した人間形成における”もの”と”ところ”の相即の妙
○土井 進（淑徳大学）
- 9:30-10:20 セルフスタディの可能性の探求：ジョン・ロックランの理論と実践を題材に
○齋藤真宏（旭川大学）
○佐々木弘記（中国学園大学）
- 10:20-10:50 教職志向の低い学生が居る中での「教職の意義に関する科目」の実践と自己省察—成績評価の不服申し立てを受けてみて—
○吉田安規良（琉球大学）
- 10:50-11:20 教職課程コアカリキュラム批判
—戦後初期コア・カリキュラムとの対比をもとに—
○金馬国晴（横浜国立大学）
- 11:20-12:00 全体討議

第 17 分科会 30 日 9:00-12:00 南講義棟 1F S106 教室[要旨 p. 194~201]

司会：佐々木 司（山口大学）
下田 誠（東京学芸大学）

- 9:00- 9:30 教師のライフコースの実践研究
—教育実践の山脈を描く—
○大脇康弘（関西福祉科学大学）
- 9:30-10:00 教師の実践的知識の発達を導く省察概念について
—省察概念の整理と実証的研究からの概念提起—
○田中里佳（東京都東村山市立回田小学校）
- 10:00-10:30 同僚教員との相談実践—語りの中のカテゴリー化に着目して—
○高嶋 江（立教大学 [大学院生]）
- 10:30-11:00 教師の感性的な省察力に関する研究
○谷本竜一（岡山市立竜之口小学校）
酒向治子（岡山大学）
- 11:00-12:00 全体討議

第 18 分科会 30 日 9:00-12:00 南講義棟 2F S201 教室[要旨 p. 202~209]

司会：吉岡真佐樹（京都府立大学）
渡辺 貴裕（東京学芸大学）

- 9:00- 9:30 協働授業観察研修における初任者と初任者指導教諭の省察
○大島崇行（上越教育大学）
- 9:30-10:00 現職教員学生が「学習者になる」ことの意味
—三重大学教職大学院における模擬授業検討会の取組から—
○園部友里恵（三重大学）
- 10:00-10:30 若手教師の成長における「転機」
○岡邑 衛（甲子園大学）
- 10:30-11:00 日本型教師教育の導入と受容：
インドネシアにおける授業研究の場合
○小野由美子（早稲田大学 [招聘研究員]）
前田美子（大阪女学院大学）
- 11:00-12:00 全体討議

第 19 分科会 30 日 9:00-12:00 南講義棟 2F S202 教室[要旨 p. 210~217]

司会： 大澤 克美（東京学芸大学）
早坂めぐみ（秋草学園短期大学）

- 9:00- 9:30 視覚障害のある教員に対する労働支援
—学習指導に関する有効な支援システムの検討—
○中村雅也（立命館大学・日本学術振興会特別研究員）
- 9:30-10:20 学習の高度化を支える教師の力量形成に関する研究
—中学校での授業分析を通して—
○大和真希子（福井大学）
○松友一雄（福井大学）
- 10:20-10:50 教員のクライシスに対応する現職教育の可能性
○阪田敦子（東京都世田谷区立中丸小学校）
- 10:50-11:20 子どもの貧困と幼児教育者の役割
○臧 俐（東海大学短期大学部）
- 11:20-12:00 全体討議

司会： 木内 剛（成蹊大学[名誉教授]）
高谷哲也（鹿児島大学）

- 9:00- 9:30 教師の省察を促進する職員研修
—テキストマイニングによる効果検証—
○森北良嗣（福井県若狭町立三宅小学校）
- 9:30-10:00 教師のライフコースにおけるリーダーシップ研究
—ミドルリーダーの管理職志向性に着目して—
○松原志保（帝京大学 [大学院生]・東京都立国立高等学校）
- 10:00-10:50 教育委員会指導主事による校内研修のコンサルテーションの工夫に関する比較検討
○木原俊行（大阪教育大学）
○島田 希（大阪市立大学）
- 10:50-11:20 若手教員の育成における中国の学校管理職の役割と意識に関する一考察
—都市部と農村部の比較の視点から A 省に焦点を当てて—
○殷 爽（九州大学 [大学院生]）
- 11:20-12:00 全体討議

第 21 分科会 30 日 9:00-12:00 南講義棟 2F S204 教室[要旨 p. 226~233]

司会：粕谷恭子（東京学芸大学）
中田正弘（帝京大学）

9:00- 9:30 国際バカロレア ディプロマ・プログラム言語 A（日本文学）教師の専門性

○高松美紀（東京都立国際高等学校）

9:30-10:00 自由度の高い協働的な探究学習の評価方略

○村上忠幸（京都教育大学）

10:00-10:50 授業現場における質問と発問の違い
—語用論と心理学の視点から—

○小沢一仁（東京工芸大学）

○重光由加（東京工芸大学）

10:50-11:20 現場教師をまねぶ（学ぶ）、実習生の育成の研究について
—教職大学院におけるサポーター実習を通して—

○国塚雄樹（愛知県知立市立知立南中学校）

11:20-12:00 全体討議

司会： 富江英俊（関西学院大学）
別惣淳二（兵庫教育大学）

- 9:00- 9:30 小学校教師が抱える困難性と経験による意識の差に関する研究
○大前暁政（京都文教大学）
- 9:30-10:20 学校教育・教職の正統性と教師の指導環境・実践スタイル・仕事満足・バーンアウトの関連構造—第 2 回教師調査と第 1 回一般人調査（2018 年 3 月実施）の結果に基づいて—
○藤田英典（共栄大学）
○和井田節子（共栄大学）
鈴木悠太（東京工業大学）
- 10:20-10:50 新採 3 ヶ月教員の実態諸相—だれのクライシスなのか—
○芦名猛夫（京都橘大学）
- 10:50-11:20 カナダ・アルバータ州における教師の専門的な能力向上と学校改善—教員スタンダードの活用と教師の語りを通じたエビデンスにもとづく省察と実践—
○黒田友紀（日本大学）
- 11:20-12:00 全体討議

司会： 齋藤ひろみ（東京学芸大学）
三山 緑（広島経済大学）

- 9:00- 9:30 指導力向上ための日常的な手立てについて
—録り流し聞き流しの効用—
○岡 篤（神戸市立有野台小学校）
- 9:30-10:00 外国人生徒教育を担う教員集団と管理職の役割
—人権教育を基盤とする公立中学校の事例から—
○伊藤莉央（大阪大学 [大学院生]）
- 10:00-10:50 組織社会化を促す小学校教師の学びと職場コミュニケーション
に関する考察—全学級担任による「校内地留学」の実践を手が
かりとして—
○仁平由美（栃木県宇都宮市立五代小学校）
○小野瀬善行（宇都宮大学）
- 10:50-11:20 アクティブ・ラーニング型の校内研修推進への試み
○小林博典（宮崎県西米良村立村所小学校）
- 11:20-12:00 全体討議

ポスターセッション 30日 9:00-12:00 南講義棟 1F ピロティ* [要旨 p. 250~273]

*荒天時は S107 教室にて行います。

[1] 現職教師は教育実習生から何を学ぶのか

○杉原真晃 (聖心女子大学)

[2] ロールレタリングを導入した教育実習支援に関する研究

○岡本泰弘 (金沢星稜大学)

[3] 教職志望学生が経験した M 教諭 I 一小学校における未認定事例一

○田実 潔 (北星学園大学)

[4] ビオトープ活動における教師の学び

○田中卓也 (静岡産業大学)

[5] 酪農家民泊体験実習が大学生の教師としての将来展望形成に与える影響

○半澤礼之 (北海道教育大学釧路校)

○宮前耕史 (北海道教育大学釧路校)

[6] 教職課程学生の教員採用試験への認識と課題価値, 大学生生活意識との関連
—教育実習前の学生を対象とした検討—

○児玉佳一 (大東文化大学)

[7] 「幼稚園・認定こども園の環境についての一考察」

—幼稚園教育実習訪問から—

○中山美佐 (大阪樟蔭女子大学)

[8] 「地域創造型教師」養成に向けた課題と展望

—北海道教育大学釧路校における取り組みから—

○宮前耕史 (北海道教育大学釧路校)

○半澤礼之 (北海道教育大学釧路校)

[9] 採用前段階の学生における授業力量形成に関する研究

—セルフスタディの手法を用いて—

○川部長人（滋賀大学）

○辻 延浩（滋賀大学）

[10] リアリスティック・アプローチによる教員研修の可能性

—静岡県総合教育センターでの実地調査に基づいて—

○矢野博之（大妻女子大学）

○若木常佳（福岡教育大学）

[11] プレFD を通した大学院生の認識の変容

—大学教員に求められる能力の自己評価の検討—

○根岸千悠（大阪大学）

[12] 私立大学教職課程カリキュラム改革の方向性—大きくくり化、新科目、コアカリキュラム、教育実習・インターンシップ等に関する調査結果と考察—

○町田健一（前・北陸学院大学）

○田子 健（東京薬科大学）

○滝沢和彦（大正大学）

工藤 亘（玉川大学）

教師教育研究の射程を問い直す

<趣旨>

日本教師教育学会は、1991年の創設当初より「教師あるいは教職という概念を、たんに学校教育に直接携わっている人々だけに限定して理解すべきではない」と捉え、「社会教育や社会福祉事業に従事する人々をも含めた広い意味での教師、いわば、教育専門家の育成」に関して「教師教育をめぐるさまざまな視野からの総合的な研究」（設立趣旨）を行うべく研究活動を展開してきた。この趣旨は、その後の教育課題の多様化や、これに伴う教師の多忙化といった状況が深刻になってきたことを背景に「チーム学校」（教員と多様な専門性を持つ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携、協働すること）が政策的に打ち出されるに至る動向を、図らずも先取りしていたと言える。

では、本学会がこれまで行ってきた研究活動は、実際に「広い意味での教師、いわば教育専門家」のありようをどのように、どれだけ視野に収めてきたのだろうか。「チーム学校」の担い手のあり方が実際に問われる中で、本学会の研究活動がそれに裏打ちを与えることがどれだけできているのか。まずはそうした点が問い直されるべきではなかろうか。

本学会が創設されて以降、教師教育のありようをめぐることは、実践面においても政策面においても様々に新たな課題が生じている。当然のことながら、それらは学校教育をめぐる同時代的な課題を背景としている。そうした新たな課題を教師教育研究の文脈に乗せる方法はどうあるべきか、という問いもまた、本学会で共有すべきものではないだろうか。

「教育の総合大学」を謳う東京学芸大学で17年ぶりに本学会の研究大会が開催されるこの機会に、大会実行委員会としては今一度、教師教育研究のありようを問い直す場を設け、会員諸氏の積極的な参画を期待したいと考えている。

- <提案者> 提案1：無藤 隆（白梅学園大学）
 提案2：松田恵示（東京学芸大学）
 提案3：百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
- <指定討論者> 高野和子（明治大学・日本教師教育学会長）
- <コーディネータ> 岩田康之（東京学芸大学）

ラウンドテーブル 30日(日) 16:30~18:00 南講義棟 1/2F [要旨 p. 276~279]

I 教師と子どもの遊ぶこと—遊びができない子どもたちに教師はどうかかわるか?—

(南講義棟 S 2 0 7 教室)

企画者・登壇者等

田中 卓也 (静岡産業大学)

時田 詠子 (群馬医療福祉大学) 香曾我部 琢 (宮城教育大学)

小林 彰彦 (日本大学) 中塚 健一 (太成学院大学 [非常勤])

<概要>

本ラウンドテーブルは、昨年のラウンドテーブル「教師養成と子ども文化—そして遊べる教師はいなくなった、いま遊べる教師とは—」の続編となるものである。子どものなかにも、遊び経験が乏しく、仲間を作ることが苦手な者も少なくない。遊びが苦手、もしくはほとんど遊んだことのない者に教師はどう関わっていくべきなのか、また教師と子どもはどのような遊びを行い、自らの成長に繋げることができるのか、話題提供者の方々とギャラリーの会員方々を中心に議論を進めていきたい。活発な意見交換をうながし、ともに考えることのできる、ラウンドテーブルにしたいと考えている。

II 日本の教職大学院：その十年を振り返る—佐藤学氏の論考を手がかりに—

(南講義棟 S 1 0 7 教室)

企画者・登壇者等

岩田 康之 (東京学芸大学)

浜田 博文 (筑波大学)

<概要>

日本の教職大学院は、専門職大学院の一種として、2008年度に創設され、その後政策的な思惑も帯びつつ拡充が進められてきている。しかしながら、修了者へのインセンティブの不充分さゆえに入学者の定員充足に難儀する大学院が多い、いわゆる「研究者教員」と「実務家教員」とのコラボレーションが円滑に進まない、などの、創設当初から懸念されていた問題が今なお存在する。

今回は、この点に関して早くから懸念を表し、「師範学校の大学院版」(「教職専門職大学院」のポリティクス—専門職化の可能性を探る)『現代思想』2005.4ほか)化の危険性を指摘していた佐藤学会員の所論を十年後の視点から再検討し、本ラウンドテーブル参加者とともに、現在展開されつつある教職大学院の課題を剔抉するとともに、今後の展望を探ることを企図したい。

教職大学院関係者を中心に、関心のある方々の参加を期待したい。

Ⅲ みんなが主人公になる学校づくり—教師とそのコミュニティの変容を中心に—

(南講義棟 S 1 0 5 教室)

企画者・登壇者等

浅井 幸子 (東京大学) 申 智媛 (帝京大学短期大学)
金田 裕子 (宮城教育大学) 北田 佳子 (埼玉大学)
黒田 友紀 (日本大学) 柴田 万里子 (青山学院大学)
望月 一枝 (日本女子大学)
玉城久美子 (お茶の水女子大学附属高等学校)

<概要>

本報告では、学校づくりにおける教師とそのコミュニティの変容過程を、0 市立 A 小学校の学校づくりの具体的な過程に即して検討する。その際に、ヴァルネラビリティ (vulnerability) の概念と、オーセンティシティ (authenticity) の概念に着目する。それは A 小学校の学校づくりにおいて、「できない」ということを他者と共有すること (ヴァルネラビリティ) と、自分の言葉で語ること (オーセンティシティ) が大切にされ、そのことによって一人ひとりの教師が主人公となって学校づくりを行うことが可能になっていたからである。当日の報告では、A 小学校の学校づくりの概要をふまえた上で、その過程をヴァルネラビリティおよびオーセンティシティの観点から検討する。

Ⅳ 初任者教員をめぐる職場の状況

(南講義棟 S 1 0 6 教室)

企画者・登壇者等

蔵原 清人 (工学院大学 [名誉教授]) 安倍 満志 (国立歴史民俗博物館)
鈴木 敏成 (東京都立七生特別支援学校) 蔵原 三雪 (元・横浜創英大学)
望月 耕太 (神奈川大学)

<概要>

本研究グループは昨年までの課題研究 I を受け継いでいる。教師教育学のこれまでの研究は教員の養成、採用、研修というプロセスに着目して行われてきたが、養成され採用された教員の力を発揮するためには環境が重要であるということがひとまずの成果であった。このため課題研究終了後も引き続き有志で、初任者の置かれている職場環境の具体的な問題を解明しようと研究を進めている。初任者教員の研修については職場による条件が多様であり、その状況を客観化し一般化することはまだ十分に行われていない。このラウンドテーブルでは初任者の職場の様子を明らかにし、初任者教員が力量を形成していくための条件として何が必要であるかを考えたい。